

どんびま

2009年4月8日発行
発行者 椛の湖農業小学校

上野のお薬師さま

椛の湖の西方 600m程のところに上野の薬師堂がある。

昔は下野の庚申堂と共に栄えたそうで、片参りはするなと言われたものだと伝え聞いている。今は地元の氏子だけのささやかなお祭りが4月の第1日曜日に催されている。祭りには下野法界寺の住職と坂下神社の宮司を頼む。

明治新政府の政策に沿って、苗木藩は徹底的な廃仏毀釈を行った。上野の住民は打ち壊しにあう寸前、旧家の土蔵に薬師如来像を隠し、境内に祠を建てて、茨城県から薬の神様大洗磯前神社を迎えて祭った。大正時代に現在の本堂に本尊が安置された以降は、神仏混合のお祭りがされるようになったという。

春の陽気の中で、上野大杉を見上げながらお経と祝詞を聞くお祭りは、先祖たちの暮らしと信仰に思いをはせる一日でもある。
(草)



4月授業日のご案内

- | | | | |
|--------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------|-------|----------------------------------|
| ●日程 | 4月19日(日) | ●服装 | 作業のできる服装 |
| 受付 | 9:00~ 9:30 | ●持ち物 | 手袋、タオル、長靴、雨具、食器(ご飯用、汁用、取り皿) 箸、お茶 |
| 始めの会 | 9:30~ 9:45 | ●郷土料理 | タケノコご飯、かきたま汁等 |
| 授業 | 9:45~11:00 | ●締め切り | 4月14日(厳守) |
| 昼食 | 11:00~11:40 | | |
| 椛の湖へ移動 | 11:40~15:40 | | |
| 椛の湖さくらまつり参加
(ビュッゲ-ム・餅投げ等あり) | | | |
| 現地解散 | | | |
| ●問い合わせ・緊急連絡 | TEL 0573-75-4417 ・090-5110-9362(山内總太郎)
TEL 0573-75-2109(椛の湖自然公園管理棟) 当日のみ | | |

※お天気のいい時は、椛の湖へお弁当にして持って行きます。

～とくちゃんの農小レポート～

～第16期桜の湖農小入学式～

今年は暖冬と云われ、何時もの年より早く花々が咲き始めました。数年前までは3月下旬はまだ寒くて、小雪の降る中での入学式も体験しました。今年は寒いとは言え好天に恵まれ、恵那山も高峰山もしっかり姿を見せた中で、コブシの花や早咲き桜のほころびを感じながら入学式を迎えました。

1 入学式。1グループから5グループまで54名が参加しました。

- * 校旗掲揚。6年生による校旗の掲揚をおこないました。
- * 校長先生の挨拶。安保校長（あぼにい）より16年目を迎えての感動と喜びの中にも、ちょっぴり学校創立時の苦労話が披露されました。
- * 農場長のお話。農作業総責任者の鈴木先生より、幾つかの注意事項がありました。初参加の生徒さんも沢山いますので、充分注意を守って安全に学校生活を堪能してください。
- * 先生、スタッフの紹介。各グループ毎に先生3名ずつの紹介がありました。今年1年間グループを中心に面倒を見て下さいます。続いては学校運営がスムーズにいくように、雑用一切を受け持って下さるスタッフと、台所で食事関係を賄ってくれるスタッフが紹介されました。
- * 来賓挨拶。姉妹校である「荒城農業小学校」の方より、激励のお言葉を頂きました。今年は沢山の炭（荒城農小で焼いた炭）を持参して頂き、五平もち焼きもお手伝いして下さいました。
- * グループ紹介。1G～5Gと順番に前に出て、自己紹介を行いました。同じグループの仲間は早く名前を覚えて仲良くなりましょう。

2 午前の授業。じゃがいもの植え付け、コマツ菜、にんじん、ホウレンソウの種まき。包丁を使って種芋を切り分け、灰を付けてから畑に植え付けましたが、怪我もなく無事に作業ができました。野菜のタネの違いを覚えて下さい！来月は発芽して成長しているのが楽しみですね。

3 昼食。五平もち。豚汁、コンテツ（コシアブラ）と竹輪の天ぷら、ひじきサラダ、大根の和えもの、ねぎの味噌和え、たくわんの粕漬け。 この地方の代表的な郷土食であり、ご馳走の一つでもある五平もちは、うるち米のご飯を練り、小さな団子を3個ずつ竹串にさして、そのまま一度炭火で軽く焼き、独特のタレ（各家庭の味）を着けて再度あびってから食べるものです。初参加の皆さん達は上手く出来ましたか？出来上がった五平もち各グループ毎のテーブルでいただきました。

4 グループ毎の話し合い。各グループで集まり、今年一年間の授業内容についての話し合いが行われました。初めて参加の生徒さんは、何月にどんな授業があるか、また事前に準備する事は何か？などを先輩達や先生・スタッフに良く聞いておいて下さい。

主な事柄を取り上げますと、先ず4月は午後から「桜の湖さくらまつり」に参加し、アトラクションやビンゴゲームを楽しみます。かぼちゃの種をポットに蒔き自宅で苗を育てて農小の畑に植えます。かぶ

とむしの幼虫をもらって成虫に飼育し、農小で運動会を行います。田植えの時期には苗と土を持ち帰り、バケツで育てて秋の収穫時のコンクールに参加します。農小では田圃で稲を作りますので、その水田の周りに立てる「案山子」作りも行います。そして案山子コンクールによる表彰もあります。何と云っても楽しみなのは8月の一泊で参加の「キャンプ」です。川遊びで鱒のつかみ取りやスイカ割りなどがあり、夜は各グループ担当で作られた料理が夜店に沢山並びます。アトラクションも用意されますが、夫々グループ毎で工夫した「出し物」も発表されます。「肝試し」も行われる予定です。

翌日は「物作り」体験教室が開かれ、木工細工、わら細工、竹細工、絞り染め、紙すき、などが行われますので、今から希望するコーナーを考えておいて下さい。用意された材料で自由発想により挑戦します。

秋は収穫の季節です。栗拾いや稲こき体験もあり、一升瓶を利用したの精米作業はかなり熱中できます。

最終の11月の卒業式には、昨年好評だった「作品展」を計画しています。生徒は勿論ですが保護者の方にも参加してもらいます。自分の趣味を生かした作品とか、8月の物作り教室で仕上げた作品とか、何でも構いませんのでジャンルを問わず出品して下さい。

*今年の重大行事のひとつに6月の「交流会」があります。これは椈の湖農小の姉妹校である4校が交流するものです。「荒城農小」「須坂農小」「桜柿羊の里農小」の代表が集まります。父兄の皆さんも是非ご参加を頂きたいと思えます。授業日の前日ですので、宿泊の準備が必要となりますのでご一考ください。授業日はお茶もみ体験です。

5 終わりの会 事務局長の山内先生から、来月の授業内容や6月の交流会など、今後の予定についての説明があり、安保校長からのプレゼントの花を頂いて解散となり、入学式を終えました。

～とくちゃんのちょっと一言～

12月～2月までの休校時期には、物づくり体験教室を「課外授業」とし、「下野いきいき会館」で取り組みますので是非ご参加ください。

3月のレシピ 五平餅のたれの作り方

材料	濃い口醤油	180cc	卵	1個
	さしみ醤油	90cc	落花生	50g
	みりん	90cc	ごま	150g
	砂糖	300g		

- ① 落花生、ごまを油がにじむくらいまで、すり鉢でよくすりつぶす。
- ② ①に卵を加え、よくすり混ぜる。
- ③ ②に醤油、みりん、砂糖を少しずつ加えながらのばしていく。

※たれを作るときの、基本分量は米1升(10カップ)に対して、醤油180cc。

好みの味になるまで、砂糖やみりんを加えていけばいいと思います。

濃さは、落花生、ごまの量で調整します。(すり落花生、すりごまでもよい)

卵は焼いたときの照りをだすため、入れなくてもかまわない。

～ あぼ兄の百姓ばなし～

耕作放棄地が増えている

例年より早く桜が咲き始め、春作業が始まったあちこちに耕作していない土地が目につくようになった。かつて先人たちは自分たちの生活を守るためと、食糧難の時代には増産を強いられて、山間の奥まで開拓をした。今のような機械はなく人力だけで苦勞して作られた田畑が今は荒れてしまっている。さらに平地でも、米余り政策で転作を強いられてたり、安い輸入農産物に勝てず農業を止めたりで、田園地帯にも歯抜けた光景を見る。

減反政策がとり入れられた頃は、農家はただでさえ収入の少ないところへの追い打ちで、激しい言い争いもおこったが、結局は集落責任として押し付けられた。農村の濃い付き合いの中で造反もできず従ってきた。くるくる変わる展望のない農業政策の結果、農家の意欲は下がる一方で、世代交代が進んだ今は、手間暇かけて水田を作らなくて済むと内心喜ばれているとも云う。中途半端なことならいっそのこと止めてしまう者もでる。あぼ兄の住む地区では耕地面積700haの内耕作を放棄された田畑が84haもあるという。水田の40%減反と合わせるとかなりの土地が生産不能地になっている。

農山村の過疎化・高齢化は今急に始まったわけではない。あぼ兄は昭和30～40年代路線バスの運転手をしていた。当時は高度経済成長政策で右上がりの勢いで、村の若者たちは労働力として街に出て行った。自動車社会とも合わせて、バス路線は間引きや廃止となり、村の過疎に拍車がかかった。

最近では当時都会へ出て行った団塊の世代が定年になって生家に帰っている。不況のせいもあってか、自家用野菜を作りたい、作り方を教えてくれと頼まれたり、安い機械はないかと尋ねられたりはするが、この地区を何とかしたいとか、村づくりをという話はひとつも聞かない。特に平成の合併以後は町や村を思う心や守ろうとする意気込みが薄れてきたようだ。

朝日新聞に「住民よ立ち上がろう」の見出し。NHKの朝の番組「産地発！たべもの一直線」の司会者永島敏行さんの記事と出会った。永島さんは俳優の傍ら、農業にかかわり、生産者が野菜や海産物を持ち寄って都会の消費者と交流する「青空市場」を主宰している。記事の中でも、「地方は都市との交流をする」ことを提唱している。過疎や高齢化で苦しんでいる農山村は「このままだとだめになる」危機感を住民自らが「なんとかする」意識に変えて立ち上がることだと云う。椈の湖農業小学校のように体験交流を通してグリーンツーリズムにつなげる活動が各地で始まっている。

地方は食糧を生産するだけでなく、森林はきれいな水を守っている。豊かな森林は雨水を保水し、水田は小さなダム役割をして下流の洪水を防ぐなど都市の住民の暮らしに直結している。地方が荒廃すれば都市も困る。農山村が元気になるためにも、さらに交流を深めたい。

農業小学校交流会のお知らせ

6月の授業日は交流会を兼ねて行います。前日20日（土）には午後2時より5時半頃まで、下野「いきいき会館」で、4校の近況報告・川津祐介さんの講演・フォークグループ土着民の演奏などを予定しています。

参加費は1家族1000円を予定しています。宿泊などは椈の湖オートキャンプ場を各自ご予約ください。